

チャレンジ！！オープンガバナンス 2024 市民／学生応募用紙

自治体提示の地域課題名(注1)	No.	自治体提示の地域課題名 非常事の備え！高齢者や外国人など、情報弱者を無くしたい！	自治体名 大阪市東淀川区
チームがつけたアイデア名(公開)(注2)	異文化交流でダイバーシティに対応したセーフティネットの構築		

(注1) 地域課題名は、COG2024 サイトの中に記載してある応募自治体提示の地域課題名を記入してください。

(注2) アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。これは自治体提示の地域課題名とは別です。

1. 応募者情報 下の欄のうち選択肢項目は右のドロップダウンで選んでください

チーム名(公開)	大阪経済大学地域おこし隊		
チーム属性(公開)	1. 市民、2. 市民／学生混成、3. 学生	ドロップダウン選択→	2. 学生
チームメンバー数(公開)	8 名		
代表者(公開)	池下 文菜		
メンバー(公開)	伊藤 航太郎、梅本 瑞希、川田 愛子、松田 未来、山口 蒼空、中川 直哉、大賀 裕太		

【注意書き】※ 必ず応募前にお読みください。

＜応募の際のファイル名と送付先＞

1. 応募の際は、ファイル名を COG2024_応募用紙_具体的チーム名_該当自治体名にして、COG2024 のウェブサイトにある【応募フォーム】からアップロードしてください。

＜応募内容の公開＞

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者および公開に同意したメンバー氏名(メンバー一覧ページを参照)、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 公開条件について:
「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY(表示)4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC(表示—非営利)4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。
(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja> および <https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)
4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公開しません)
5. この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。ただし、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあります。

＜知的所有権等の取扱い＞

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様をお願いします。
7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

アイデアの説明が肖像権・著作権等を侵害していないことを確認してください。OKなら右欄の○を選択 → OK

＜チームメンバー名簿:メンバー一覧ページ＞

チームメンバーに関する情報を該当ページに記載して提出してください。(2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。)

アイデアの説明は(1)アイデアの内容(活動)、(2)アイデアの理由(なぜなら)、(3)実現までの流れ、の三項目ありま

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

す。それぞれ書いてください。必要に応じて図表を入れていただいて結構です。

(1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、対象とする課題解決のために、どのような社会的活動（サービス）を行うのかを具体的に示してください。将来実現した場合に、新規性があり、実践したくなり、魅力的でわくわくするようなアイデアを求めます。その結果、課題が解決され、社会に良い変化をもたらすことが期待されます。2 ページ以内でご記入ください。

※応募チームとして解決したい課題のポイントを、以下にごく短く書いてください

<解決したい課題のポイント>

外国人住民と地域住民との間での情報（災害等）の非対称性の解消

※以上の課題解決のために『何』をするアイデアか、それを『だれ』が『だれ』に対して『いつ』『どこで』『どのように』行うのか、受益者自身が主体的に関わる視点も視野に入れてわかりやすく書いてください。アイデアが具体的に実行される場面を想定し、説明をお願いします。

（参考）よいアイデアを生むには関連データの分析に加えてデザイン思考によるアイデアを利用する人への共感（使う人の立場になってみる）が大切です。

<提案するアイデアの内容>

■異文化交流

1. データ分析

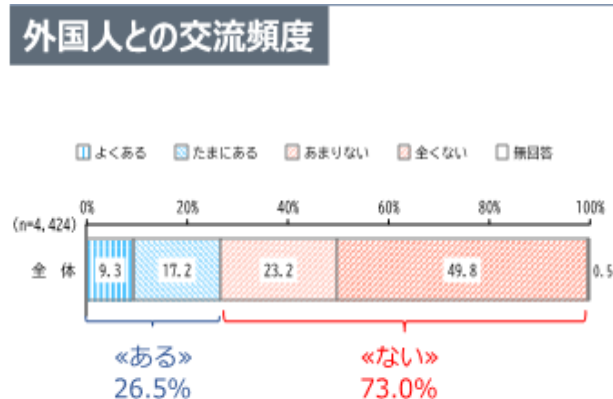
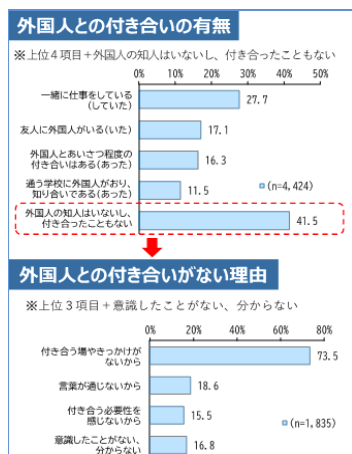
内閣府の全国20歳以上の者を対象とした、令和5年2月調査の「国際文化交流に関する世論調査」（内閣府ホームページ<<https://survey.gov-online.go.jp/h04/H05-02-04-18.html>>2024年12月1日最終閲覧）では、以下の結果が報告されています。

回答が多かった年代は45歳～59歳（45～49歳：10.8%、50～54歳：10.2%、55～59歳：10.1%）であり、20～24歳が6.4%で最も回答率が低い結果となっている。「国際文化交流の現状」については、「まあ十分に行われている」と回答した割合が全体の40.8%を占めるが、一方で「あまり十分には行われていない」と回答した割合が全体の33.5%を占めている。さらには、「諸外国の日本文化に対する理解度」については、「あまり理解されていない」と回答した割合が全体の5割弱（51.1%）と高い数値となっている。

また、総務省が令和5年10月17日～同年11月30日にかけて、日本国籍を有する18歳以上、計10,000人におこなった「外国人との共生に関する意識調査（日本人対象）」と題する調査では、最近、身の回りに働いている外国人が増加してきていることを《感じる》は62.4%と高いにもかかわらず、外国人との付き合いの有無は、「外国人の知人はいないし、付き合い合ったこともない」が41.5%と最も高く、外国人との付き合いがない理由は、「付き合う場やきっかけがないから」が73.5%と特に高い。（総務省ホームページ<<https://www.moj.go.jp/isa/support/coexistence/survey03.html>>2024年12月1日最終閲覧）。

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

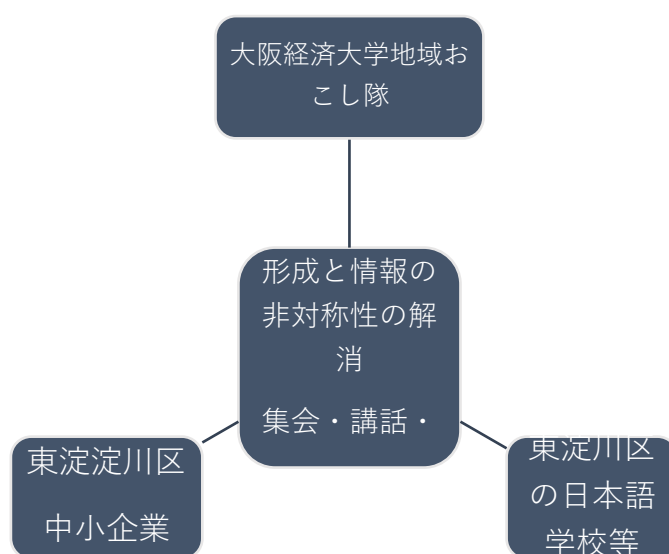


2. アイデア内容

わたしたちは、この課題を解決するため、誰もが主催者側になれる、異文化交流集会・講話会（文化・歴史・経済・教育・環境等についての留学生との対話）・イベントを通じての防災等を含む地域情報交換の充実と促進を図ることを提案します。具体的には、地元地域（東淀川区）の日本語学校等の留学生の方々および外国人労働者を積極的に採用なさられている、あるいは防災関連等グッズの製造や加工に従事なさられている中小企業のみなさまと連携し、四半期ごとに、大学（大阪経済大学）、地域の小中学校等の教育機関や地元の商業施設（大阪経済大学が産学連携協定を締結している「かみしんプラザ」《管理者：野村不動産コマース株式会社／所在：大阪市東淀川区大隅 1-6-12》）のほか、地域集会所（高齢者の方々を想定して。）において、異国の文化とわが国の文化（伝統的遊びの文化、産業・技術の文化など）の交流を通じて、地域住民と、こうした留学生など外国にルーツのある方々とのつながりやコミュニティの形成を促進し、特に災害等の緊急時の情報の非対称性を解消していこうという提案です。

このことは、情報の非対称性の解消だけではなく、その相乗効果は、お互いの文化への尊重意識を涵養し、強いては、こうした交流活動の SNS 情報発信により、外国人観光客への臨時の際の対応にもつながると考えます。

〔連携実施例〕



※安積濾紙株式会社：外国人労働者を積極採用している安積濾紙株式会社に伺いに行きました。安積濾紙株式会社とは、1919年から高性能の濾紙・フィルター製造を通じ、美しい環境づくりに貢献すべく業務を展開している会社です。

※国際未来学院：大阪市東淀川区に所在する日本語学校で、日本語を習得することによって、日本、日本人及び日本文化の良さ理解者となり、日本と出身国との良き架け橋となる人材、優れた国際人を育成しています。

2. アイデアの説明（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

次にアイデアを提案する理由（なぜ）について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ2ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類などの数値データやアンケート・インタビュー・経験の記述、関連の計画、既存の施策などの定性データも広く含みます。データは出所を明らかにしてください。

※このアイデアを提案する理由（なぜ）を書いていきます。

※先に書いた『何を』『だれが』『だれに対して』『いつ』『どこで』『どのように』というアイデアの内容を支えるために、『なぜ』このアイデアが有効で、実現する意味があるのか』を、上記のデータを使ってわかりやすく説明します。

＜参考：以下のように理由を書いていきます＞

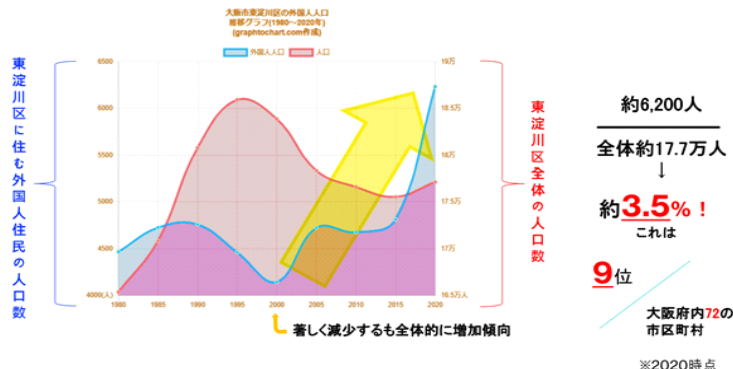
※根拠：このアイデアがなぜ必要であるか、またはなぜ有効だと考えるのか、その筋道を説明します。

※裏付け：その根拠を支えるために、統計データや報告書、事例などを使って補強します。さらに具体的なアイデアの効果についても、何らかのデータを使うと説得力が増すでしょう。（定性データを含めて歓迎）

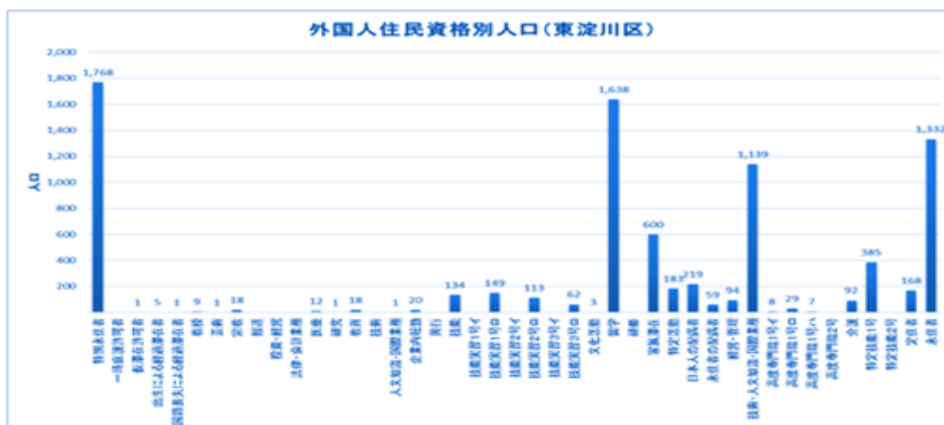
1. 外国人人口の増加

大阪市東淀川区には多くの外国人が暮らしています。図表1は国勢調査と住民基本台帳人口を基にした、1980年～2020年の大阪市東淀川区の外国人人口の推移を表したグラフです。右の縦の単位は東淀川区全体の人口数を表し、左の縦のグラフは東淀川区に住む外国人の人口数を表しています。そして青色は外国人住民人口を表し、赤色は東淀川区人口を表しています。このグラフを見てみると、2000年に著しく減少するも全体的に増加傾向にあり、2015年以降も着々と増加しています。2020年時点では全体人口約17.7万人中、約6,200と約3.5%の外国人住民が暮らしています。また、同時点における外国人人口の多さは大阪府内72の市区町村になかで9番目に多いというのが現状です。また、外国人住民資格別人口をみると、東淀川区においては、「特別永住者」について、「留学生」の人口が多いことがみてとれます（図表2）。

〔図表1〕



〔図表2〕



Source:大阪市の住民基本台帳人口・外国人人口（令和5年度3月末）

2. 情報の非対称性

2-1. 学術資料

わたしたちは、以下の3つの学術文献資料から情報の非対称性の解消には、コミュニティ形成や関係性の構築が大切であることを理解しました。

「外国人住民の情報入手の実態と認識：新型コロナワクチンの情報に関するインタビュー調査の質的分析」(高橋彩夏ほか北関東医学 73 (1), 69-79, 2023-02)	・主に学校、SNSや身近な人 ・ネットの情報よりも身近な人からの情報を信頼 ・行政からの情報はほとんど見ていない
「外国人住民に対する防災情報提供方策の現状と課題」(小倉 亜紗美ほか政策学 = Policy and practice studies 6 (2), 209-220, 2020)	・「やさしい日本語」の活用や外国人コミュニティと日頃から連絡を取るなど、外国人住民に情報伝達を行う方法を確立することが急務
「外国人母子保健に関するCBPRから見えてくる『地域社会と外国人』- 多文化共生から多文化共創へ」(武田 文)ほか人間福祉学研究 12 (1), 57-72, 2019)	・外国人母子も、地域社会の中でこの「ことばの壁」、「制度の壁」、「心の壁」という3つの壁に直面している ・対等な視点に立脚した協働からの相乗効果を生み出す「多文化共創」へと意識改革

2-1. 留学生アンケート調査

わたしたちが、現在、共にイベントをおこなっている国際未来学院の留学生の方々へのアンケート調査では、情報それ自体の入手には困っていなかったが、興味ぶかいことに地域の欲しい情報として、「地震が発生したときの対応」との回答もありました。

留学生アンケート結果

日本に来た理由

- ・日本で働きたい
- ・日本の自動車産業に関わりたい
- ・日本の文化、技術が好き

地域の方との交流

- ・国際交流（今回行ったような交流）
- ・アルバイト
- ・近所のおばあちゃんとラジオ体操をする

地域の生活で不便に思うこと

- ・お店での注文
- ・日本人の話すスピード
- ・学費が高い
- ・物価が高い（電車賃、通話料金等も含む）

どのような地域の情報が欲しいか

- ・国際免許証をどうやって発行するのか
- ・体育館の借り方
- ・地震が発生したときの対応

→実際には、学校やアルバイト先などのコミュニティがあるため、大半の人は情報の入手には困っていなかった。

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを**実現する主体**、アイデアの**実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）**の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの**実現にいたる時間軸を含むプロセス**、実現の制度的制約がある場合にはその解決策を含め、**アイデア実現までの大まかな流れ**について、**2ページ以内**でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

※アイデアに即した実現に向けての具体的な活動を上記のポイントに即して工夫して書いていきます

＜以下のように分けて書いていきます＞

1. **実現する主体**
2. **実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）**の大まかな規模とその現実的な調達方法
3. **実現にいたる時間軸を含むプロセス**

1. 実現する主体

■大阪経済大学地域おこし隊（大阪経済大学経営学部古賀敬作ゼミナール）ほか、東淀川区の留学生（日本語学校）および中小企業のみなさまです。

現時点では、東淀川区の日本語学校（国際未来学院）、中小企業（安積濾紙株式会社）と協力・連携をしてイベント活動をおこなっているが、さらに、協力・連携先を拡充していく予定です。

2. 実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）

■ゼミナール単位で活動をおこなっているためマンパワーは必要不可欠です。マンパワーの調達については、後輩の2年生（20名）と一緒に活動をおこなう予定です。

■モノ・カネについては、現在の課題をリサイクルと紐づけて活動をおこなう予定です（たとえば、防災関連の商品イベントについては、段ボール、空き箱など。文化に係るモノの調達についても、粘土や古紙など低コストで抑えることができる。）

3. 実現にいたる時間軸を含むプロセス

※今年度 2024 年度からすでに取り組んでいるため、継続かつ拡充の観点から、次年度 2025 年度取り組んでいきます。

2025 年度	内容	備考
1 月	・ 連携拡充等の实地調査 ・ SNS 等情報発信の構築 ・ 施設等の検討 ・ 臨時の災害等の場合のグッズ企画	現 3 回生と現 2 回生とのジョイント活動
2 月		
3 月		
4 月		
5 月	留学生との集会	
6 月	地域集会所での講話会	新 2 回生加入
7 月	大学での講話会	
8 月	夏季異文化交流イベント	
9 月		
10 月		
12 月	冬季異文化交流イベント	

以下、余白。